

ニュースレター

Hokkaido University
Institute for the Advancement of Higher Education

北海道大学 高等教育推進機構
Newsletter No. 94



ピア・サポート 2012 年度の活動 (3 ページ)

「教学評価体制 (IR ネットワーク) による
学士課程教育の質保証」採択 (11 ページ)

1 年次学生の成績と GPA 値の推移 (14 ページ)

CoSTEP 研修生制作の映像作品を上映 (19 ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言 FOREWORD

大学院教育部設置からの 1 年

高等教育推進機構副機構長・大学院教育部長 工学研究院教授 小林 幸徳

昨年 4 月発行の本ニュースレターでお知らせしたとおり、平成 24 年 4 月から、高等教育推進機構に大学院教育部が新設されました。本学の大学院理工系専門基礎科目および大学院共通授業科目の企画・立案等ならびに「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された本学のプログラムの推進に関する業務等を担当しています。

高等教育推進機構には多くの委員会が設置されていますが、大学院関連は以下の 2 つとなっています。

学務委員会

- ・大学院共通教育専門委員会
- ・リーディングプログラム推進専門委員会

これに加えて、教育改革室に大学院教育検討 WG が設置されています。以下に、各委員会の具体的業

務の紹介と報告をさせていただきます。

大学院共通 教育専門委員会

本委員会は、各研究科等選出の委員で構成され、大学院理工系専門基礎科目および大学院共通授業科目の企画・立案等を審議します。2 つの科目群は、本学における大学院教育の特徴的な科目群であり、今後増加が期待される研究科等横断型教育においても重要な役割を担うもので、以下のように分類されます。

【大学院理工系専門基礎科目】

主に理工系の研究科等が各専攻で開講している科目をもとに提供し、専門領域を越えた基礎的・学際的授業科目や科学技術倫理に関する授業科目、国際的に通用するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を養成することを目的とした授業科目。

(平成 25 年度は 112 科目開講予定)

【大学院共通授業科目】

全学の教員が自ら新たに提供し、既存の研究科等の垣根を越えた総合的、学際的な視点に立脚した効果的教育を発展させることや、大学院教育における専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養することを目的とした授業科目。

(平成 25 年度は 108 科目開講予定)

これまで、大学院理工系専門基礎科目と大学院共通授業科目とで重複して登録されている科目が多数あったこと、両科目群のシラバスが別冊であったことから、学生の履修登録の際に混乱の要因となっていました。そこで、平成 25 年度の開講に向けて、重複登録科目の整理を行い、シラバスを合冊とした上で、各科目群の特徴や、文系の研究科等に所属する学生であっても、大学院理工系専門基礎科目を履修可能であること等の履修の要件を分かり易く示す工夫を行うこととしました。

大学院共通科目は、平成 20 年度は 71 科目の開講でしたが、平成 25 年度は 108 科目となり、科目数が大幅に増加しています。しかし、これらの科目の実施を支援するための予算は増額が難しい状況にあります。今後も厳しい財務状況が想定されることから、委員会では必要経費を詳細に検討して積算するとともに、科目担当者には費用に関する申請と報告を求めることとし、適切な運用に努めることとしました。関連の先生方には、お手数おかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

リーディングプログラム推進専門委員会

本委員会は、「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されたプログラムの推進に係る企画・立案と、プログラムの進捗状況評価を担当する委員会です。同プログラムは、優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する

質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。本学では、獣医学研究科を中心とする専攻等が推進する「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」が平成 23 年度に採択されており、本委員会では、プログラムの実施に必要な規則の制定や、プログラムの進捗状況の確認などを行いました。

大学院教育検討 WG

本 WG は、大学院教育に関する諸課題を検討する WG です。平成 24 年度は、主に、次の課題について取り組みました。

平成 24 年 3 月に大学院設置基準が改正され、博士前期課程を修了し修士の学位を授与する要件として、博士論文研究基礎力審査の合格を、修士論文等の審査と試験の合格に代えることができることとなりました。この博士論文研究基礎力審査を本学で導入する際の留意事項をとりまとめて、全学に報告するとともに、関連する規則の改正を行いました。

また、大学院教育の実質化を推進する方策として、博士の学位審査体制の整備と学位授与率の向上に取り組まれました。具体的には、平成 22 年 3 月に策定した「北海道大学における学位授与（博士課程）に関する指針」に基づく各研究科等の取組実施状況と博士の学位授与率のデータを教務委員会に報告するとともに、各研究科等に通知することで、さらなる取組の充実を促すこととしました。加えて、「指針」の推奨される取組として掲げている、学位論文内容および審査の要旨の Web 公表について検討し、教務委員会と図書館の関係小委員会の承認を経て、平成 25 年 6 月期の学位被授与者分から本学のリポジトリである HUSCAP に掲載することとしました。なお、過去の要旨を遡及して公表することは、データベースとしての充実を図るためにも意義がありますので、可能な範囲で Web 公表を進めていく方針です。このような取組は今後一層拡大する見込みですので、指導教員の先生におかれましては、ご対応とご指導をよろしくお願いいたします。

上記以外では、大学院教育部長として、平成 24 年度「大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援～」に採択された「人口・

活動・資源・環境の負の連鎖を転換させるフロンティア人材育成プログラム」の開発にもアドバイザーとして参画しています。大学院教育のグローバル化が急務となっており、これらのプログラムとも連携し

て、国際的に通用する単位互換制度の構築やダブル・ディグリー・プログラムの推進にも努めていく予定であり、大学院教育部に求められる役割も増しつあります。

充実した学生生活を過ごすためのヒントを得られる部屋に ～ピア・サポート 2012 年度の活動～

ピア・サポーター 国際広報メディア・観光学院 博士後期課程 2 年 平 侑子

ピア・サポートが「学生による学生支援組織」として発足して 4 年、今年度は昨年度を 1,000 人以上上回る 6,600 人も学生がピア・サポート室を訪れました。それぞれ、サポーターに相談をしたり、置いてある本を読んだり、イベントに参加したりと部屋での時間を自由に過ごしています。

今年度のピア・サポートでは、「組み立てた時間割をチェックしてほしい」「先生へのアPOINTはどうやって取ったらよいか」といった学生生活における悩み相談に加えて、充実した学生生活を過ごすためのヒントを提示することにも力を入れました。

例えば、9 月には北図書館の方々と共同で、イベント「少年よ、学部を選べ!」を実施しました。このイベントでは、主に総合入試で入学した 1 年生に対して、各学部の 2～4 年生が「学部選びに役立つ本」を紹介しました(写真 1)。様々な学部の発表者が一つの部屋に集まったため、参加した 1 年生はこれまで興味がなかった学部の話も聞けたようです。「先輩方がみんな話しやすくてよかった」「自分の知らない学部・学科について教えてもらえて、自分の可能性が広がった」「どの学部に行けばいいのか曖昧だったが、詳しい話を聞いて進路がだいたい見えてきた」との感想が寄せられました。

また、1 月には『進路情報データベースとらのまき』という冊子を作成しました。この冊子には、各学部の学生・院生の 1 週間のスケジュールや、印象的な授業内容、勉強方法のアドバイス、卒業後の進路を決めた要因やエピソード等が載っています。

学部や学科・コース選びに迷っている学生に向けて、これからの学生生活の可能性や進路の多様性をより一層感じてもらうと、サポーター自身が情報を集めてきました。実際のところ、各学部学科における研究内容や就職情報とは異なり、「先輩が普段何を考えて行動しているのか」「先輩はどのような学生生活を送っているのか」という情報は入手しづらいようで、ピア・サポート室に訪れる学生にとって、この『とらのまき』は学部移行や来年度の計画を立てる際の一つの参考になっているようです。

来年度も、北大生の学生生活が充実したものになるよう、学生だからこそできる活動を行っていきます。私達の活動の詳細は、ピア・サポート活動報告書に載っていますので是非ご参照ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/gakusei/campus-life/support/peer-support.html#item4>)



写真 1 「少年よ、学部を選べ!」での一コマ

北海道大学における授業料免除に関する取り組み

授業料免除申請者数及び免除者数は本学の様々な取り組みにより、年々増加しています(図1)。平成19年度と平成24年度を比較すると申請者数は約43%、免除者数についても約42%増加しています(いずれも年間延人数)。ここでは、本学の最近6年間の授業料免除における主な取り組みについて紹介します。

①前後期一括申請の導入(平成20年度)

それまでは学期(前期・後期)毎に免除申請が必要でしたが、前期に後期分を含めた前後期一括申請を可能にし、申請者の負担を軽減しました。これにより、特に後期の申請者数が大きく増加しました。

②申請書類の配付方法を窓口配付から本学HP掲載へ変更(平成22年度)

大学HPに申請書類を掲載することで、申請者が申請書を取得しやすくなり、また遠隔地に住む保護者も容易に申請書類を確認できるようになりました。これにより、申請者数は前年度から約21%増加しました。

③全額免除者を最低100名確保することを決定(平成23年度)

それまで予算の関係上、全額免除者は僅かしかいませんでしたが、平成23年度から大学の免除予算額が増額されたことが後押しとなり、全額免除者数を100名以上とし、より家計困窮者の実情に配慮したものとしました。

④1/4免除を新設(平成23年度)

本学独自の制度として新たに1/4免除を導入し、申請者の家計状況に応じたメリハリのある授業料免除を実施できるようにしました。

⑤東日本大震災被災学生の支援を開始(平成23年度・以後継続支援)

一定の被災度が認定された被災学生については全額免除とするなど、被災度に応じた授業料免除を実施しました。支援は平成24年度も継続して実施しており、平成25年度についても実施する予定です。

教育改革室では、今後も授業料免除に関する制度の見直し・改善を図り、より一層の効果的な経済的支援を行っていきたいと考えております。

(学務部学生支援課係長 伊藤 広雄)

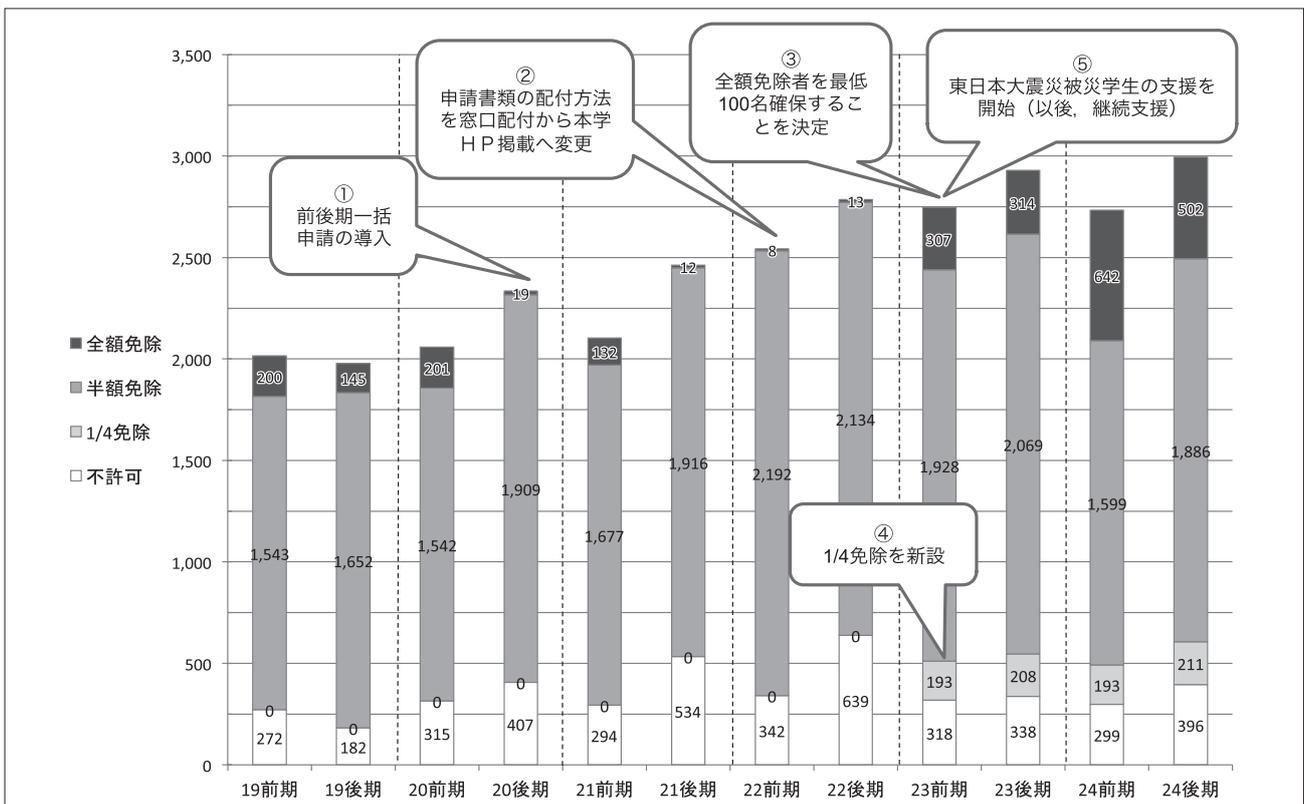


図1 授業料免除実施状況(平成19年度~平成24年度)(単位:人)

全学教育 GENERAL EDUCATION & 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

全学教育科目における授業参観について

全学教育科目における授業公開・参観は、授業改善方策の一環として平成 22 年度に導入された制度です。具体的には、下記に該当する授業科目のうち担当教員が授業公開することを許可した科目について、各学期の一定期間、授業を参観できる期間を設け、参観した教員が授業を実施する際の参考にしていただくものです。

- ① 授業アンケートにおけるエクセレントティーチャーズが担当する科目
- ② 授業アンケートにおいて、評価が上位であった理系基礎科目の教員が担当する科目

- ③ 外国語科目及び理系基礎科目で、科目責任者から推薦された科目
- ④ 授業参観対象科目として公開することについて希望があった科目

平成 23 年度までは、当該年度の全学教育科目を担当する常勤教員のみが参加可能でしたが、平成 24 年度からは、全学教育科目を担当していない常勤の教員にも門戸を広げました。

平成 25 年度については、次のとおり実施する予定となっていますので、若手教員の積極的な参加を期待しています(表 1)。

(学務部教務課全学教育・総合教育推進室)

表 1 授業参観のスケジュール

第 1 学期	第 2 学期	
5 月上旬	11 月上旬	授業参観の実施について、助教以上の常勤教員全員に通知し、授業参観への参加を希望する者を募る。
5 月下旬	11 月下旬	授業参観を希望する教員の情報を、対象科目を担当する教員あて通知する。
6 月中の 2 週間	12 月中の 2 週間	授業参観の実施

学務委員会報告

平成 25 年 3 月 1 日(金)に平成 24 年度第 5 回学務委員会、3 月 21 日(木)に第 6 回学務委員会が開催され、以下の議題について話し合いました。

平成 24 年度第 5 回学務委員会

議題

1. 進級判定・進級要件単位充足判定について
2. 第 0 次振り分け定員・第 1 次振り分け定員の決定について
3. 北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程の一部を改正する規程について
4. 北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程について
5. 北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—(平成 24 年度第 2 学期)の被表彰者の選考について
6. 学生の懲戒解除について
7. 北海道大学全学教育科目責任者等に関する要項の一部を改正する要項について
8. 新渡戸カレッジの創設にかかる全学教育科目の新設等について
9. 『「秀」評価, GPA 制度, 自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について

(Q & A)』について

10. 出欠確認システムによる授業実施回数の確認について
11. 平成 25 年度全学教育に係る T・A の採用について

報告事項

1. 平成 25 年度の抽選科目における履修調整について
2. 平成 25 年度授業参観の実施について
3. 平成 24 年度全学教育専門委員会の検討事項(報告)について
4. 平成 25 年度全学教育科目の開講計画変更について
5. 平成 24 年度第 1 学期の成績評価結果等について
6. 平成 24 年度第 2 学期履修者数について
7. 平成 24 年度北海道大学フロンティア奨学金受給者(総合教育部)の推薦について

進級判定・進級要件単位充足判定、および振り分け定員の決定

総合入試入学の在籍者文系 113 名、理系 1,131 名のうち、文系入学者 107 名、理系入学者 1,087 名、学部別入試の在籍者 1,451 名のうち 1,401 人、1 年次学生全体で 2,595 名が 2 年次への進級要件 32 単位を充たしました。

なお、総合入試入学の在籍者 1,194 名を対象として、各学部・学科等の振り分け定員の決定を行いました。

大学院理工系専門基礎科目および大学院共通授業科目規程の改正

大学院理工系専門基礎科目と大学院共通授業科目について見直しを行い、授業科目の新設、廃止、名称変更、および単位数の変更を行いました。

北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—(第 2 学期)の被表彰者の選考

本賞は、本学の全学教育科目の自然科学実験において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。平成 24 年度は、第 1 学期 2 名、第 2 学期 5 名

を被表彰者として選考しました。その後、3 月 28 日に表彰式が執り行われました。

新渡戸カレッジの創設にかかる全学教育科目の新設等

文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の採択に伴い、本学では平成 25 年 4 月より特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を創設します。新渡戸カレッジの定員は 200 名であり、平成 25 年度入学者のうち、平成 25 年 4 月に 120 名、平成 26 年 4 月に 80 名が入校する予定となります。

新渡戸カレッジ生のための授業科目(いわゆる新渡戸カリキュラム)として全学教育科目の新設が提案され、了承されました。新渡戸カレッジ開講科目のうち下記の 4 つが全学教育科目とコードシェアすることになります。(コードシェアとは、その科目を履修することにより、最終的に該当する新渡戸カレッジ開講科目と全学教育科目の両方の単位が認定されるしくみのことです。)

- ① 新渡戸カレッジにおいて「留学支援英語」として開講する科目
→全学教育科目「英語演習—上級：留学支援英語」
- ② 新渡戸カレッジにおいて「フィールド型演習」として開講する科目
→全学教育科目「一般教育演習(フレッシュマンセミナー)」のうち指定したもの
- ③ 新渡戸カレッジにおいて「多文化交流科目等、異文化理解促進科目」として開講する科目
→全学教育科目「一般教育演習(フレッシュマンセミナー)」のうち指定したもの
- ④ 新渡戸カレッジにおいて「海外留学」として開講する科目
→全学教育科目「一般教育演習(フレッシュマンセミナー)—グローバル・キャリア・デザイン」

出欠確認システムによる授業実施回数の確認

全学教育科目の単位の実質化を実現するための方策として、出欠確認システムによる授業実施回数を確認するシステムの導入が提案され、了承されました。

平成 25 年度全学教育に係る T・A の採用

平成 25 年度全学教育科目に係る T・A について、

T・Aを必要とする授業科目、必要人数及び時間数が了承されました。T・Aの必要人数は、延べ1,292人で、38,386時間となりました。必要経費の総額は49,120千円です。昨年度比530千円の増となりました。

平成25年度授業参観の実施

上記について、今年度から文書(メール)による参加申請にしたところ、参加者数の大幅な増加がありました。

平成24年度フロンティア奨学金受給者の推薦

1年次学生(総合教育部)に関するフロンティア奨学金受給者の決定は、総合教育学生専門委員会の推薦を経て、フロンティア奨学金受給選考WGによる面接、その後教育改革室会議においてに選考することとなっています。今年度は、8名が推薦され、5名が受給者として選考されました。

平成24年度第6回学務委員会

議題

1. 総合入試入学者の移行先の決定について
2. 学生の懲戒について

報告事項

1. 1年次学生の異動について
2. 平成25年度クラス担任幹事会及びクラス担任等連絡会について

総合入試入学者の移行先の決定

平成24年度総合入試入学者の各学部・学科への移行先の決定が了承されました。2年次への進級要件を充たした合計1,194名を対象にして、第1次振り分け、第2次振り分け、補充振り分けを実施し、最終的に1,188名の学部・学科移行が決定しました。また、文系1名、理系5名が志望する学部・学科等に移行できないことから進級先を決定できませんでした。

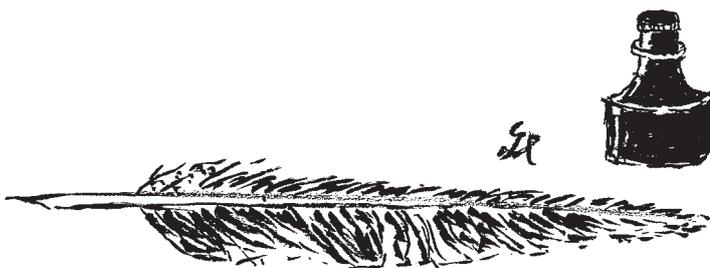
1年次学生の異動

平成25年2月までの学生の異動が報告されました。平成23年度入学者は、休学者28名、退学者1名、平成24年度入学者は、休学者29名、除籍(死亡)者1名となりました。これは昨年度の異動者数と比べて減少しています。

平成25年度クラス担任等連絡会

平成25年度クラス担任等を対象としてクラス担任幹事会が3月7日、クラス担任等連絡会が3月14日に開催されました。

(山口 淳二 理学研究院教授・教育改革室役員補佐)



2013(平成 25)年度 全学教育部・総合教育部行事予定表

第1学期

月 日 (曜日)	行事
4 1(月)午後～4(木)	新入生定期健康診断
5(金)	新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス (学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
8(月)	入学式
9(火)	履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム (ELMS) 利用に関するガイダンス
10(水)	第1学期授業開始日
10(水)～16(火)	抽選科目の申込期間 (Web 入力)
18(木)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
19(金)～25(木)	平成18～25年度入学者履修届 Web 入力
19(金), 22(月)	平成17年度以前入学者履修届受付
5 20(月)	6 講時授業実施開始※下記参照
6 6(木)	開学記念行事日 (休講)
6(木)～9(日)	大学祭 [6(木), 7(金)は休講]
12(水)～14(金)	履修登録した科目の取消し受付 (Web)
15(土)	TOEFL-ITP 試験 (英語II)
27(木)	6 講時授業実施終了※下記参照
7 24(水)	水曜日の授業終了日
25(木)	木曜日の授業終了日
30(火)	火曜日の授業終了日
31(水)	月曜日の授業を行う日 (水曜日の授業は行わない)
8 1(木)	初習外国語統一試験日 (通常授業は休講)
2(金)	金曜日の授業終了日
4(日)～5(月)	オープンキャンパス
5(月)	月曜日の授業終了日 (第1学期授業終了日)
6(火)～9月26日(木)	夏季休業日
13(火)	成績報告締切 (非常勤 [帳票])
19(月)正午	成績報告締切 (常勤 [Web 入力])
26(月)	平成18～25年度入学者の全学教育科目成績 Web 上公開
26(月)～27日(火)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
26(月)～9月26日(木)	自由設計科目登録変更期間
9 上旬～中旬	学科等分属手続: 当該学部 (2 年次以上)

第2学期

月 日 (曜日)	行事
9 25(水)午後	学部・学科等移行ガイダンス
26(木)	学部・学科等紹介
27(金)	第2学期授業開始日
27(金)～10月3日(木)	学部・学科等移行手続き (予備志望調査)
27(金)～10月3日(木)	抽選科目の申込期間 (Web 入力)
10 7(月)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
8(火)～15(火)	平成18～25年度入学者履修届 Web 入力
8(火), 9(水)	平成17年度以前入学者履修届受付
11 17(日)	AO 入試・帰国子女入試
12 4(水)～6(金)	履修登録した科目の取消し受付 (Web)
24(火)	月曜日の授業を行う日 (火曜日の授業は行わない)
26(木)～1月3日(金)	冬季休業日
1 6(月)	授業再開
14(火)	月曜日の授業を行う日 (火曜日の授業は行わない)
17(金)	センター試験準備 (休講)
18(土)～19(日)	大学入試センター試験
22(水)	水曜日の授業終了日
29(水)	初習外国語統一試験日 (通常授業は休講)
30(木)	木曜日の授業終了日
31(金)	金曜日の授業終了日
2 3(月)	月曜日の授業終了日
4(火)	火曜日の授業終了日 (第2学期授業終了日)
5(水)午後	学部・学科等移行ガイダンス
6(木)	学部・学科等紹介
10(月)	成績報告締切 (常勤 [Web 入力], 非常勤 [帳票])
17(月)	平成18～25年度入学者の全学教育科目成績 Web 上公開
17(月)～18(火)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
17(月)～21(金)	自由設計科目登録変更期間
19(水)	私費外国人留学生入試第2次選考 (予定)
25(火)～26(水)	北海道大学第2次入学試験 (前期日程)
28(金)正午	全学教育科目成績確定 (予定)
28(金)午後～	第1年次進級判定 (予定)
28(金)午後	学部・学科等移行手続き (予定)
～3月20日(木)	(第1回志望調査～各学部振り分け)
3 12(水)	北海道大学第2次入学試験 (後期日程)

※ 6 講時(18:15-19:45)授業実施スケジュール

月曜 1 講時の授業は 5 月 23 日(木)実施	木曜 1 講時の授業は 5 月 20 日(月)実施	金曜 1 講時の授業は 5 月 21 日(火)実施
月曜 2 講時の授業は 5 月 30 日(木)実施	木曜 2 講時の授業は 5 月 27 日(月)実施	金曜 2 講時の授業は 5 月 28 日(火)実施
月曜 3 講時の授業は 6 月 13 日(木)実施	木曜 3 講時の授業は 6 月 10 日(月)実施	金曜 3 講時の授業は 6 月 11 日(火)実施
月曜 4 講時の授業は 6 月 20 日(木)実施	木曜 4 講時の授業は 6 月 17 日(月)実施	金曜 4 講時の授業は 6 月 18 日(火)実施
月曜 5 講時の授業は 6 月 27 日(木)実施	木曜 5 講時の授業は 6 月 24 日(月)実施	金曜 5 講時の授業は 6 月 25 日(火)実施

平成 24/23 年度 (第 1 学期) 全学教育科目履修者数対比表

区分	授業科目	24 年度 1 学期			23 年度 1 学期			24/23 年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	93	2,122	22.82	97	2,199	22.67	▲ 77	96.5%
	(集中・論文指導除く) 小計	22	469	21.32	19	385	20.26	84	121.8%
	(集中:フィールド体験 (通年集中除く)) 小計	14	438	31.29	16	478	29.88	▲ 40	91.6%
	(論文指導) 小計	57	1,215	21.32	62	1,336	21.55	▲ 121	90.9%
総合科目	環境と人間	17	1,129	66.41	18	1,477	82.06	▲ 348	76.4%
	健康と社会	10	1,493	149.30	9	1,954	217.11	▲ 461	76.4%
	人間と文化	7	364	52.00	6	345	57.50	19	105.5%
	人間と文化 (集中)	1	15	15.00	1	20	20.00	▲ 5	75.0%
	特別講義	2	129	64.50	2	269	134.50	▲ 140	48.0%
	学問の世界	3	96	32.00	3	295	98.33	▲ 199	32.5%
	総合科目 小計	40	3,226	80.65	39	4,360	111.79	▲ 1,134	74.0%
主題別科目	思索と言語	15	1,294	86.27	8	1,287	160.88	7	100.5%
	思索と言語 (論文指導)	3	48	16.00	3	44	14.67	4	109.1%
	歴史の視座	7	649	92.71	10	939	93.90	▲ 290	69.1%
	歴史の視座 (論文指導)	3	64	21.33	4	80	20.00	▲ 16	80.0%
	芸術と文学	10	696	69.60	9	762	84.67	▲ 66	91.3%
	芸術と文学 (集中)	2	140	70.00	2	139	69.50	1	100.7%
	芸術と文学 (論文指導)	4	80	20.00	7	178	25.43	▲ 98	44.9%
	社会の認識	23	1,909	83.00	17	2,572	151.29	▲ 663	74.2%
	社会の認識 (論文指導)	10	121	12.10	9	241	26.78	▲ 120	50.2%
	科学・技術の世界	13	1,367	105.15	18	2,546	141.44	▲ 1,179	53.7%
	科学・技術の世界 (論文指導)	4	107	26.75	4	113	28.25	▲ 6	94.7%
	主題別科目 小計	94	6,475	68.88	91	8,901	97.81	▲ 2,426	72.7%
	(集中・論文指導除く) 小計	68	5,915	86.99	62	8,106	130.74	▲ 2,191	73.0%
(集中) 小計	2	140	70.00	2	139	70	1	100.7%	
(論文指導) 小計	24	420	17.50	27	656	24.30	▲ 236	64.0%	
共通科目	体育学 A (実技・1 単位)	53	1,597	30.13	53	1,623	30.62	▲ 26	98.4%
	体育学 B (講義・2 単位)	1	96	96.00	1	92	92.00	4	104.3%
	情報学	18	2,729	151.61	14	2,703	193.07	26	101.0%
	統計学	11	851	77.36	11	893	81.18	▲ 42	95.3%
	インターンシップ	2	157	78.50	2	100	50.00	57	157.0%
	共通科目 小計	85	5,430	63.88	81	5,411	66.80	19	100.4%
外国語を除く教養科目 合計		312	17,253	55.30	308	20,871	67.76	▲ 3,618	82.7%
うち論文指導 (主題別・一般教育演習) 小計		81	1,635	20.19	89	1,992	22.38	▲ 357	82.1%
外国語科目	英語	140	5,414	38.67	139	5,459	39.27	▲ 45	99.2%
	ドイツ語	30	1,123	37.43	27	1,119	41.44	4	100.4%
	フランス語	13	329	25.31	15	292	19.47	37	112.7%
	ロシア語	5	111	22.20	5	77	15.40	34	144.2%
	スペイン語	6	274	45.67	6	264	44.00	10	103.8%
	中国語	24	790	32.92	24	867	36.13	▲ 77	91.1%
	韓国語	5	159	31.80	5	187	37.40	▲ 28	85.0%
外国語科目 小計	223	8,200	36.77	221	8,265	37.40	▲ 65	99.2%	
外国語演習	英語演習	88	1,842	20.93	83	1,744	21.01	98	105.6%
	英語演習 (集中)	1	30	30.00	1	21	21.00	9	142.9%
	ドイツ語演習	15	343	22.87	14	269	19.21	74	127.5%
	フランス語演習	12	180	15.00	13	240	18.46	▲ 60	75.0%
	ロシア語演習	6	68	11.33	6	75	12.50	▲ 7	90.7%
	スペイン語演習	7	163	23.29	4	74	18.50	89	220.3%
	中国語演習	14	346	24.71	14	229	16.36	117	151.1%
	韓国語演習	6	111	18.50	6	105	17.50	6	105.7%
	外国語特別演習	15	233	15.53	13	199	15.31	34	117.1%
	外国語演習 小計	164	3,316	20.22	154	2,956	19.19	360	112.2%
外国語 合計		387	11,516	29.76	375	11,221	29.92	295	102.6%
基礎科目	人文・社会科学の基礎 (集中含む)	12	1,350	112.50	11	1,413	128.45	▲ 63	95.5%
	文系基礎科目 小計	12	1,350	112.50	11	1,413	128.45	▲ 63	95.5%
	線形代数学	33	1,883	57.06	33	1,869	56.64	14	100.7%
	微分積分学	33	1,861	56.39	33	1,909	57.85	▲ 48	97.5%
	数学概論	4	55	13.75	4	188	47.00	▲ 133	29.3%
	数学 小計	70	3,799	54.27	70	3,966	56.66	▲ 167	95.8%
	物理学・物理学 (上級)	26	1,786	68.69	31	1,866	60.19	▲ 80	95.7%
	化学	29	1,923	66.31	31	1,939	62.55	▲ 16	99.2%
	生物学	20	1,527	76.35	21	1,551	73.86	▲ 24	98.5%
	地球惑星科学	7	934	133.43	7	733	104.71	201	127.4%
	理科 小計	82	6,170	75.24	90	6,089	67.66	81	101.3%
	基礎自然科学実験	1	21	21.00	1	12	12.00	9	175.0%
	自然科学実験	18	996	55.33	17	1,006	59.18	▲ 10	99.0%
実験 小計	19	1,017	53.53	18	1,018	56.56	▲ 1	99.9%	
基礎科目 合計		183	12,336	67.41	189	12,486	66.06	▲ 150	98.8%
日本語・日本事情		4	28	7.00	4	25	6.25	3	112.0%
全学教育科目 1 学期合計		886	41,133	46.43	876	44,603	50.92	▲ 3,470	92.2%

※ 23 年度 1 学期の「基礎物理学」は、24 年度 1 学期には「物理学」に名称を変更したため、変更後の科目に計上。
 ※ 23 年度 1 学期の「物理学」は、24 年度 1 学期には「物理学 (上級)」に名称を変更したため、変更後の科目に計上。

平成 24/23 年度 (第 2 学期) 全学教育科目履修者数対比表

区分	授業科目	24 年度 2 学期			23 年度 2 学期			24/23 年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	52	1,185	22.79	51	1,155	22.65	30	102.6%
	(集中・論文指導除く) 小計	15	380	25.33	16	342	21.38	38	111.1%
	(集中:フィールド体験) 小計 (論文指導) 小計	6 31	129 676	21.50 21.81	5 30	154 659	30.80 21.97	▲25 17	83.8% 102.6%
総合科目	環境と人間	18	1,548	86.00	17	1,429	84.06	119	108.3%
	健康と社会	5	1,233	246.60	6	1,404	234.00	▲171	87.8%
	人間と文化	4	370	92.50	3	191	63.67	179	193.7%
	特別講義	1	56	56.00	1	61	61.00	▲5	91.8%
	学問の世界	1	90	90.00	3	79	26.33	11	113.9%
	総合科目 小計	29	3,297	113.69	30	3,164	105.47	133	104.2%
主題別科目	思索と言語	9	774	86.00	10	1,004	100.40	▲230	77.1%
	思索と言語 (論文指導)	2	45	22.50	2	51	25.50	▲6	88.2%
	歴史の視座	10	844	84.40	10	815	81.50	29	103.6%
	歴史の視座 (論文指導)	6	94	15.67	2	27	13.50	67	348.1%
	芸術と文学	7	1,668	238.29	13	1,825	140.38	▲157	91.4%
	芸術と文学 (論文指導)	2	64	32.00	2	31	15.50	33	206.5%
	社会の認識	12	1,495	124.58	16	1,712	107.00	▲217	87.3%
	社会の認識 (論文指導)	5	89	17.80	7	150	21.43	▲61	59.3%
	科学・技術の世界	16	1,753	109.56	12	1,349	112.42	404	129.9%
	科学・技術の世界 (論文指導)	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0.0%
	主題別科目 小計	69	6,826	98.93	74	6,964	94.11	▲138	98.0%
	(集中・論文指導除く) 小計	54	6,534	121.00	61	6,705	109.92	▲171	97.4%
	(論文指導) 小計	15	292	19.47	13	259	19.92	33	112.7%
外国語科目	英語	150	4,940	32.93	152	4,914	32.33	26	100.5%
	ドイツ語	30	1,102	36.73	27	1,089	40.33	13	101.2%
	フランス語	15	323	21.53	15	278	18.53	45	116.2%
	ロシア語	5	113	22.60	5	72	14.40	41	156.9%
	スペイン語	6	275	45.83	6	269	44.83	6	102.2%
	中国語	23	796	34.61	23	837	36.39	▲41	95.1%
	韓国語	5	155	31.00	5	184	36.80	▲29	84.2%
	外国語科目 小計	234	7,704	32.92	233	7,643	32.80	61	100.8%
外国語演習	英語演習	53	1,269	23.94	52	1,327	25.52	▲58	95.6%
	ドイツ語演習	14	347	24.79	15	376	25.07	▲29	92.3%
	フランス語演習	12	181	15.08	9	182	20.22	▲1	99.5%
	ロシア語演習	7	118	16.86	6	89	14.83	29	132.6%
	スペイン語演習	5	116	23.20	5	111	22.20	5	104.5%
	中国語演習	13	361	27.77	16	361	22.56	0	100.0%
	韓国語演習	6	111	18.50	6	121	20.17	▲10	91.7%
	外国語特別演習	15	281	18.73	15	257	17.13	24	109.3%
	外国語演習 小計	125	2,784	22.27	124	2,824	22.77	▲40	98.6%
	外国語 合計	359	10,488	29.21	357	10,467	29.32	21	100.2%
共通科目	体育学 A (実技・1 単位)	50	1,382	27.64	49	1,464	29.88	▲82	94.4%
	体育学 B (講義・2 単位)	1	328	328.00	1	245	245.00	83	133.9%
	情報学	10	518	51.80	10	612	61.20	▲94	84.6%
	統計学	9	820	91.11	9	803	89.22	17	102.1%
	共通科目 小計	70	3,048	43.54	69	3,124	45.28	▲76	97.6%
	外国語を除く教養科目 合計	220	14,356	65.25	224	14,407	64.32	▲51	99.6%
	うち論文指導 (主題別・一般教育演習) 小計	46	968	21.04	43	918	21.35	50	105.4%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	6	892	148.67	4	898	224.50	▲6	99.3%
	文系基礎科目 小計	6	892	148.67	4	898	224.50	▲6	99.3%
	線形代数学	27	1,293	47.89	27	1,375	50.93	▲82	94.0%
	微分積分学	27	1,512	56.00	27	1,511	55.96	1	100.1%
	数学概論	1	21	21.00	1	31	31.00	▲10	67.7%
	数学 小計	55	2,826	51.38	55	2,917	53.04	▲91	96.9%
	物理学・物理学 (上級)	26	1,649	63.42	26	1,721	66.19	▲72	95.8%
	化学	27	1,906	70.59	27	1,857	68.78	49	102.6%
	生物学	20	1,397	69.85	20	1,416	70.80	▲19	98.7%
	地球惑星科学	5	1,198	239.60	5	1,076	215.20	122	111.3%
	理科 小計	78	6,150	78.85	78	6,070	77.82	80	101.3%
	心理学実験	4	108	27.00	4	92	23.00	16	117.4%
	自然科学実験 (2 単位)	18	1,056	58.67	17	1,020	60.00	36	103.5%
実験 小計	22	1,164	52.91	21	1,112	52.95	52	104.7%	
	基礎科目 合計	161	11,032	68.52	158	10,997	69.60	35	100.3%
	日本語・日本事情	1	18	18.00	1	14	14.00	4	128.6%
全学教育科目 2 学期合計		741	35,894	48.44	740	35,885	48.49	9	100.0%
全学教育科目 1 学期合計		886	41,133	46.43	876	44,603	50.92	▲3,470	92.2%
全学教育科目 1・2 学期合計		1,627	77,027	47.34	1,616	80,488	49.81	▲3,461	95.7%

「教学評価体制（IR ネットワーク）による 学士課程教育の質保証」採択される

平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業として表記事業が平成 24 年 9 月に採択されました。本事業は北海道大学が代表となり、連携大学としてお茶の水女子大学、琉球大学、大阪府立大学、玉川大学、同志社大学、関西学院大学及び甲南大学が参加しています。また、ステークホルダーとして北海道経済連合会、堺商工会議所、沖縄県経営者協会、神戸商工会議所、京都商工会議所、一般社団法人日本能率協会、リクルートワークス研究所、株式会社インテリジェンス HITO 総合研究所及び株式会社三菱総合研究所も事業に参加しており、適時事業内容についてのコメントをいただいています。平成 24 年度から 5 年間の予定で実施します。

事業の背景

高等教育の質的向上のために、GPA 制度、CAP 制の導入、単位の実質化等の方策はすでに多くの大学で実施されてきました。そうした方策を十分に機能させ、持続的に教育の質保証を推進するためには、PDCA サイクルの中のチェックとしての IR (Institutional Research) 機能を開発し、大学の教学支援を充実させることが重要です。

大学の教学支援組織には、「学習支援」、「教育支援」、「教学評価」の 3 部門が必要と考えられます。これらがバランス良く機能してはじめて、教学支援体制が整い、高等教育における PDCA サイクルが現実のものとなります。IR 活動は、「学習支援」、「教育支援」に資するデータを提供できるため、教育の質保証を実現するうえできわめて強力なツールとなります。

また、現在、大学には「グローバル人材の育成」が強く求められています。これに応じるためには、学生の英語力に関するアウトカム評価や、卒業生調

査による大学教育の評価を実施し、その結果に基づいてカリキュラム改革を実行することが必要です。IR の整備が進むことで、そのような活動も実施されることになります。

事業内容

IR とは、大学運営や教育改革の効果を検証するために大学内のさまざまな情報を収集して数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営などに活用する活動です。

この取組では、IR を基盤とした全国規模の大学評価コミュニティ育成をめざすとともに、各大学の教学支援体制のモデル化とその実現を目標としています。さらに、英語教育の卒業時までの経時的評価体制によるグローバル化への対応、卒業生調査を通じて大学教育の職業的レリバンス（大学教育を通じて身につける能力と社会で求められる能力のミスマッチ）の検証をおこないます。

すなわち、大学間の垣根をこえて 8 つの大学で共通のアンケートを継続的に実施し、それと各大学の教務データをあわせて解析をおこないます。対象は 1 年生ならびに上級生です。アンケートには、生活・習慣・学習状況等の質問に加え、学生による学習成果の自己アセスメントが含まれており、多角的な視点で解析することができるようになっています。この事業では以上のような IR 活動の結果から得られた客観的データに基づき、学士課程教育の質保証システムの創出と教学支援組織の育成をめざしています。いずれもアンケート調査が基盤となりますので、実施にあたりましては、皆さまのご協力をお願いいたします。

(細川 敏幸)

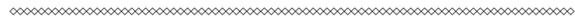
IR ネットワーク推進室の新メンバー紹介

3月1日に特任准教授として着任しました宮本淳と申します。実は本ニュースレターで自己紹介をさせていただくのは2度目になります。以前、アカデミック・サポートセンターに所属しており、高等教育推進機構の皆様と交流を持たせていただきました。当時は、FD、IR、IDE、PFF…の略が、何を指すのかもわからず戸惑っておりましたが、この度、IR (Institutional Research: 教学評価体制) の推進を担当することになりました。

私の専門は北海道大学の特徴的な研究の一つである、雪氷学です。主に本学低温科学研究所で、南極やグリーンランド氷床の物理的性質に関する研究を続けてきました。長く大学に所属し、多くの学生と接する中で、研究だけでなく、教育に関しても貢献できたらと思ひ、現在に至っておりますが、課題の

多さと責任の重さを感じています。しかし、日本の高等教育においては、先進的な取り組みであるIR事業に関わることができることに喜びを感じ、専門分野の全く異なる徳井先生や他大学の方々と共

働しての事業の推進には、日々多くの刺激を受けています。学生を対象としたアンケート調査とその分析により、高等教育の現状と変化を定量的に捉え、大学の改善に役立てることが事業推進の柱になりますが、IR活動の周知も含め、努力して参ります。どうぞ、よろしくお願い致します。(宮本 淳)



3月1日付で特任准教授として着任いたしました徳井美智代と申します。IR担当として同時期に着任した宮本先生と一緒に、学生アンケート調査をはじめとする、教学評価体制(IRネットワーク)推進に向け、さまざまな取り組みを行っていく予定です。2月までは、本学教育学研究院に学術研究員として所属し、教育学部・教育学研究院の卒業生・修了生を対象とした卒業生調査の実施と結果の分析、報告書の執筆に携わっていました。

自身の専門は労働研究で、東京都大田区の小零細製造業をフィールドに業主とその妻や母が果たす多様な役割について調査研究を行ってきました。労働過程分析という方法論を用い、実際に現場へ足を運んで丹念な聞き取り調査を行う中から浮かび上がっ

てくる「事実」の中に課題の答えを求めています。

今後は、北大の学生を対象としたアンケートだけでなく、対象を卒業生にまで広げ、北大での学びがどのように活かされているのか

といった、教学の効果や課題についての分析につながるデータの収集を目指したいと考えています。北海道大学にとって有用なデータの蓄積に寄与し、教職員の方々、学生の皆様のお役にたてるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

(徳井 美智代)

1. 講義担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員1人につき、責任部局は5～6コマ、準責任部局は6コマ）に計上）

部局	授業科目	文		教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水	
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	
教養科目	主 思索と言語	21																							
	〃（論文指導）	5																							
	歴史の視座	15						1																	
	〃（論文指導）	5			2	2																			
	芸術と文学	11		6																					
	〃（論文指導）	6																							
	社会の認識	11			1	7	1	10																	
	〃（論文指導）	7				3		2																	
	科学・技術の世界	3									19								6						
	〃（論文指導）	2									1								1						
基礎科目	共通 体育学B				2																				
	統計学							10	6										3						
	主題別への振替(外国語演習)	24			1	4		4		2															
	人文・社会科学の基礎	5			3	6		4																	
	線形代数・微分積分・数学概論										91	33													
	物理学(上級)・物理学										32		1						6		4			1	
	化学										14						4		11		3				
	生物学										22						1		2		5		1		
	地球惑星科学										11														
	日本語・日本事情																								
計	115	0	6	9	0	22	1	31	6	192	33	1	0	0	0	5	0	29	0	12	0	1	0	1	

2. 外国語授業及び実験等担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員1人につき、責任部局は8～10コマ、準責任部局は10コマ）に計上）

部局	授業科目	文		教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非
教養科目	共通 体育学A				84	17																		
	情報学I・II																		15	50				
	インターンシップ																							
	英語																							
	ドイツ語																							
	フランス語																							
	ロシア語																							
	スペイン語																							
	中国語																							
	韓国語																							
基礎科目	英語演習																							
	ドイツ語演習			4																				
	フランス語演習																							
	ロシア語演習																							
	スペイン語演習																							
	中国語演習																							
	韓国語演習																							
	外国語特別演習																							
	心理学実験	8																						
	基礎自然科学実験										6													
自然科学実験(物理学)										50	12							14		4				
自然科学実験(化学)										20	16					4								
自然科学実験(生物学)										42	10													
自然科学実験(地球惑星科学)										18														
計	8	4	0	84	17	0	0	0	0	136	38	0	0	0	0	4	0	29	50	4	0	0	0	0
開講コマ数(講義換算(×5/8))				5	52.50			0	0	85		0		0		2.4		18.125		2.4				

(準)薬学部、農学部は講義換算(×6/10)

3. 責任部局の開講責任コマ数（配当教員1人あたりの負担コマ数（講義換算）が、責任部局では5コマ以上、準責任部局では6コマ以上必要）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
配当教員数(H24.4.1予定)	24	12	4	6	66			(準)1	6	(準)2		
開講コマ数(講義換算(×5/8))	120	64.50	23	31	348.75			6.0	30.0	12.0		
配当教員1人当たり負担コマ数	5.00	5.38	5.75	5.17	5.28			6.00	5.00	6.00		

4. 全学支援開講コマ数(上記1及び2表で3表に算入しないコマ数)

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
開講コマ数						1		3	28	4	1	

5. 全学協力（総合科目及び一般教育演習（フレッシュマンセミナー））担当コマ数（責任部局の開講責任コマ数には計上しない。）

授業科目	部局	文		教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水		
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非
教養科目 総合科目 目	環境と人間									3								6		3		3		5		
	健康と社会				3							4		4		1								1		
	人間と文化	1					1		1															1		
	特別講義																									
	学問の世界	1														1					1			1		
	一般教育演習(フレッシュマンセミナー)	2		1	2					7	1							1		10		1		7		
	〃 (論文指導)	3					3		2	5	11		5		4		22		1		1		2		1	
	一般教育演習への振替(外国語演習)		2	1		1		1		3	7	11	1			6			1					1		
外国語演習(全学協力分)																										
計		7	0	3	6	0	5	0	4	0	18	1	22	0	10	0	6	0	35	0	16	0	6	0	17	0

6. 全部局の担当状況

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
専任教員数(23.5.1助教以上専+外)	108	39	63	46	197	220	89	58	388	132	48	88
開講コマ数合計(専+外)	130	95	27	33	325	23	10	15	93	32	7	19
教員一人あたりの開講コマ数(専+外)	1.20	2.44	0.43	0.72	1.65	0.10	0.11	0.26	0.24	0.24	0.15	0.22
開講コマ数合計(専+外+非)	143.00	116	28	41	418	23	10	15	143	32	7	19
非常勤担当コマ数	13	21	1	8	93	0	0	0	50	0	0	0
非常勤依存率(非/全体)	9.09%	18.10%	3.57%	19.51%	22.25%	0.00%	0.00%	0.00%	34.97%	0.00%	0.00%	0.00%

全学教育科目は、旧教養教官団を継承した7つの責任部局と、医学部保健学科の新設を機に設けられた2つの準責任部局を中心に、広く全学に支援を得て実施されている。

表1、表2は旧教養部から引き継いだ定員(配当教員)に基づき、責任・準責任部局が開講責任を負う科目のコマ数である。

責任部局については配当教員1名につき、講義(表1)5~6コマ、実験・実技・外国語科目(表2)8~10コマの開講責任を、準責任部局については配当教員1名につき、講義(表

表3は責任部局の配当教員数と講義換算した開講コマ数を示すことにより、開講負担状況を示したものである。

表4は表1・2で示されるコマ数の内、開講責任のない部局が提供しているコマを示す。これにより全学支援の状況を示す。

表5は全学の協力により実施される総合科目・一般教育演習(フレッシュマンセミナー)の担当コマ数である。総合科目は各部局1コマ以上、「一般教育演習(フレッシュマンセミナー)」

表6は全部局の担当状況をまとめた表である。(ここでは、部局経費負担による非常勤講師のコマ数は「開講コマ数合計(専+外)」欄には含めず、「非常勤担当コマ数」欄に含めている。

(参考) 年度別非常勤コマ数(全学教育経費分)(平成6-24年度) ※部局経費負担分を除く

年度	非常勤	一般教育演習	合計	増減
6	690		690	
7	848		848	158
8	752		752	△ 96
9	651		651	△ 101
10	656	4	660	9
11	659	5	664	4
12	656	9	665	1
13	675	10	685	20
14	679	7	686	1
15	692	15	707	21
16	694	16	710	3
17	655	14	669	△ 41
18	571	7	578	△ 91
19	488	7	495	△ 83
20	397	6	403	△ 92
21	347	6	353	△ 50
22	341	8	349	△ 4
23	343	5	348	△ 1
24	343	5	348	0

(部局経費負担分)

	合計
6.5	501.5
40	443.0
51	404.0
52	401.0
49	397.0
71	419.0

文4、理1.5、その他(戦略本部)1

文4、理17、薬1、外18

文3、経2、理20(創成2含む)、薬1、外25(北京オフィス所長就任に伴う総

文4、経2、理23(創成2含む)、薬1、外22(北京オフィス所長就任に伴う総

文5、経2、理19、外23(北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4コマを含

文4、教育4、経2、理21、外40(北京オフィス所長就任に伴う総長協議分4

(計画)

IR キックオフシンポジウムを開催しました

2013年3月3日(日)に、平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」の取組の一環として、同志社大学今出川校地室町キャンパスにて、IRキックオフシンポジウムを開催し、82名が参加しました。

本取組では、IR活動の結果から得られた客観的データに基づき、学士課程教育の質保証システムの創出と教学支援組織の育成を目指しています。本シンポジウムでは、この教学支援組織の育成における

中核となるIR人材育成を目的として、海外のIR専門家および国内の識者をお招きしてご講演いただきました。

本シンポジウムの報告書を発行しましたので、ご興味のある方は、IRネットワーク推進室までご連絡ください(図1)。

IRネットワーク推進室

E-mail: irnw@high.hokudai.ac.jp

URL: <http://8gp.high.hokudai.ac.jp/>

「学生調査2012年報告書」を発行しました

平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」では、連携大学間の相互評価を目的として、共通アンケートを実施しています。本学における調査対象者は、一年生と三年生です。

このたび、2012年11月から2013年1月にかけて実施された、「学生調査2012年」の結果をまとめた報告書を発行しました(図2)。下記URLに

もアップロードされておりますので、ぜひご覧ください。

<http://8gp.high.hokudai.ac.jp/3-houkoku.html>

次号以降で、結果の一部を紹介する予定です。

なお、平成25年度も11月頃にアンケートを実施する予定です。関係者の皆様のご協力よろしくお願いたします。(竹山 幸作)

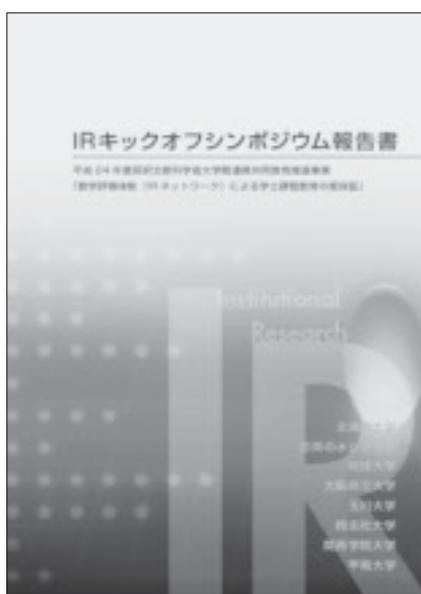


図1 IRキックオフシンポジウム報告書



図2 学生調査2012年報告書

1 年次学生の成績と GPA 値の推移

本学では平成 17 年度以降、学習意欲の向上や教育の質の保証等を目的として、“GPA 制度”を導入し、修学指導や奨学金の選考基準等に活用しています。学生の皆さんの成績は、秀 4.0、優 3.0、良 2.0、可 1.0、不可 0 として点数化され、最終的には各学部での専門科目における GPA と併せて、卒業時の GPA が算出されています。

GPA 制度も導入後 8 年が経過し、分析が可能な程度のデータが蓄積してまいりました。そこで、これまでの蓄積データを活用し、大学入学当初の学修意欲や学力の変化を把握するため、1 年次 1 学期の GPA 値等について分析を行いましたので、報告します。

平均 GPA 値の上昇と平準化

まず初めに、平均 GPA 値の変化をご覧ください (図 1)。本学に GPA を導入した平成 17 年度第 1 学期(平成 17 年度は試行実施)の全学平均 GPA 値は 2.23 であるのに対し、平成 21 年度は 2.40、平成 24 年度は 2.50 と着実に上昇していることがわかります。

次に、系別の GPA 値を比較してみると、導入当初は系毎に平均 GPA 値に大きなばらつきがありましたが、平成 22 年度には各系の差がほとんどなくなり、系毎の GPA 値が平準化されていることがわかります。しかし、総合入試が導入された平成 23 年度以降、再び系毎の差が生じていることもわかります。

語学力 (英語) の向上

平均 GPA 値の上昇が、直ちに「学習意欲や学力の高い学生が多く入学している」ということには繋がりません。その理由は後ほど説明しますが、一言で言うと、GPA 値はテスト等の成績だけでなく様々な要因に影響を受けるためということです。

それでは、まず、学生の学力が実際に上昇しているのかということについて、全 1 年次学生が 6 月頃に受験する“TOEFL ITP”の成績から考えてみたいと思います (図 2)。このグラフを見ると、平成 17 年度以降、多少の下降も見られますが、概ね着実に成績が上昇していることがわかります。大学生受験者の平均点が 449 点 (国際教育交換協議会発表資料より) であることを考えると、本学 1 年次学生の英語能力が比較的高いレベルにあることもわかります。このことから、確かに今回の GPA 値の上昇には、学力 (語学力) が高い学生が増加していることも、その要因の一つにあると指摘することができます。

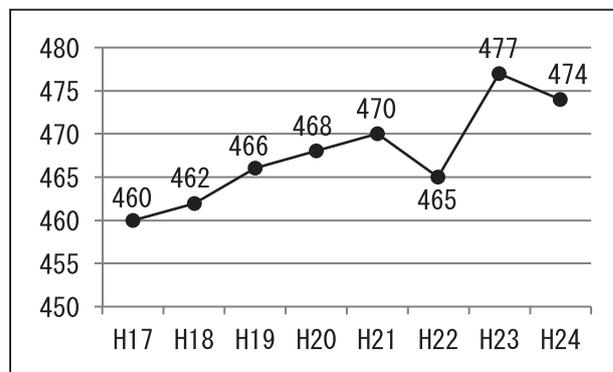


図 2 1 年次学生 TOEFL ITP 平均点の推移

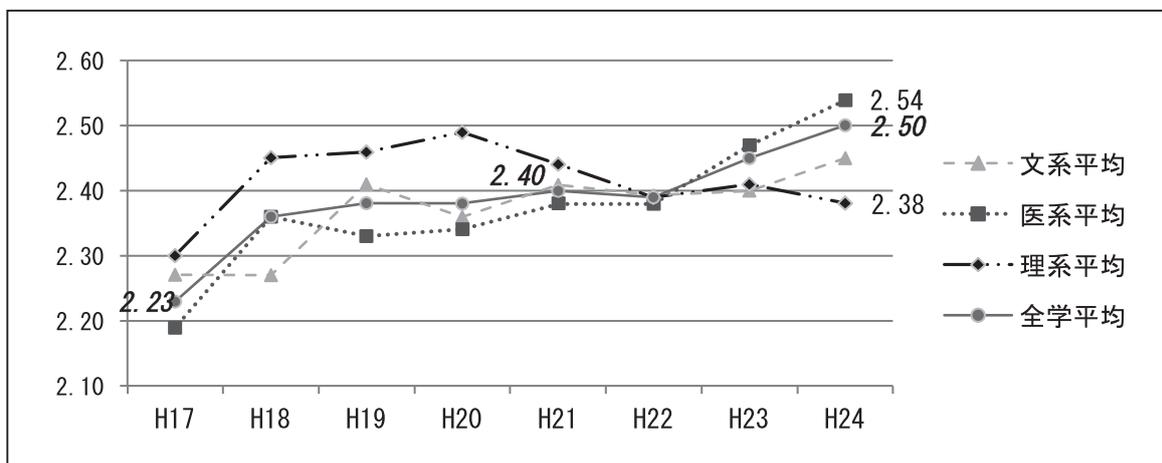


図 1 (系別) 1 年次 1 学期平均 GPA 値の推移 ※自由設計科目登録変更前の数値

一般科目における GPA 値の変化は様々

“TOEFL ITP” スコアの上昇に伴い、英語単位優秀認定申請者数も平成 18 年の 107 人から平成 24 年は 226 人に倍増しています。外国語科目ではこうして GPA 値が上昇していますが、こうした学力の上昇は外国語以外の科目でも同様の傾向が見られるのでしょうか。そこで次に、外国語以外の科目の GPA 値の変化について見てみたいと思います。

図 3 は、全学教育科目（外国語科目を除く）の中で平均 GPA 値（これまでの通算）が高いものから 5 番毎（1 位、6 位、11 位…）に 26 位まで抽出し（計 6 科目）、8 年間の GPA 値の変化を示したグラフです。このグラフを見ると、“体育学 A”については、平均 2.6 前後で推移していますが、“科学・技術の世界”は平成 23 年度までは 2.3 前後なのに対し平成 24 年度は 2.6 に上昇しています。さらに“基礎自然科学実験”は最低 2.4 から最高 3.2 までの範囲で大きく変動しています。

このように GPA 値の変化の様子は科目毎に大きく異なり、一概に学力が上昇傾向にあると指摘することは出来ないような結果となりました。

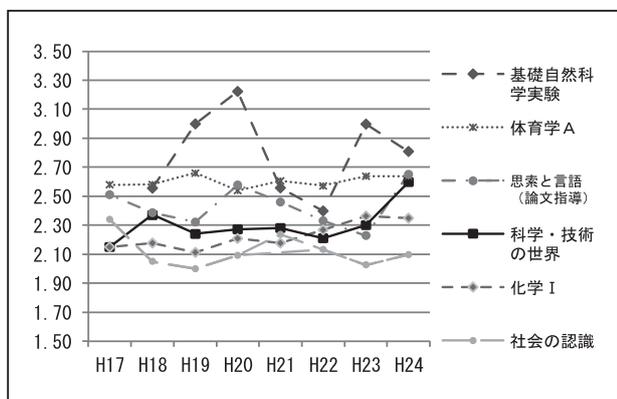


図 3 (科目別) 通算平均 GPA 値の推移 (抜粋)

GPA 値の変化の要因

これまで見てきたように、語学力（英語）が高い学生が増加している一方で、一般的な科目では学力の上昇傾向は明らかにはなりません。これらのことから、結論として「学習意欲や学力の高い学生が多く入学したことから、GPA 値が上昇した」とは言い切れないと考えます。では、なぜ図 1 のように全体の GPA 値が上昇傾向にあるのか、その理由について考察したいと思います。

その理由にはいくつかの要因が考えられます。

① GPA 制度の浸透

まず初めに、教員側に GPA 制度自体が浸透してきたということが考えられます。平成 16 年度までは、優・良・可・不可の 4 段階の成績により評価を実施してきました。それが GPA 制度の導入に伴い、成績が数値化され、成績分布等により他の科目と比較が可能となったことから、教員は成績の付け方に十分な配慮が必要となりました。全学教育専門委員会からの指導もあり、極端に偏った成績付けが行われていないことが平均 GPA 値の上昇に繋がっていると考えられます。

②成績評価基準の設定

全学教育科目では、科目毎に成績評価基準を設定し、シラバスに評価方法を明示するとともに、成績評価結果を HP で公表しています。この基準に従い、各科目で厳格な成績評価が実施されております。

この厳格な成績評価が全学教育科目の担当教員に浸透することにより、正当な評価が実施されるようになり、その結果 GPA 値が上昇しているものと考えられます。

今後に向けて

今回の分析では、1 年次学生の平均 GPA 値が上昇しており、その背景には語学力（英語）の向上や GPA 制度の浸透などにあることを指摘しました。

今回のデータにもあるように、総合入試導入以降、GPA 値には変化が現れています。このことは「一年生調査 2011」の結果においても、授業時間以外に週 5 時間以下しか学習しない学生の割合が減少している（H21 入学生：50.1% → H23 入学生：41.9%）など、学習に対する意識が変化していることが明らかになってきています。今後はこうした調査結果も参考に、学習意欲に対する分析もより綿密に実施する必要があると考えています。

現在教育改革室では、こうした様々な状況を踏まえ、GPA 制度の在り方の見直しを検討しています。また、学務部教務課においても、海外の大学への留学に活用しやすい GPA 制度や、学習意欲を高めるような GPA の活用方法といったことについて、これまで蓄積したデータや海外の大学の事例等を参考に、引き続き検討を続けていく予定です。

(学務部教務課主任 稲葉 正思、

同全学教育・総合教育推進室 石水 健)

高等教育 HIGHER EDUCATION

第4回「大学院生のための大学教員養成(PFF)講座」を開催 ～持続可能な若手研究者FDとネットワーク～

3月18日(月)～22日(金)に、「大学院生のための大学教員養成(PFF)講座：ティーチングとライティングの基礎 [Preparing Future Faculty: An Introduction to Teaching and Writing for Graduate Students]」を高等教育推進機構主催・水産科学研究院共催で開催し、札幌会場での講義を函館会場にもPolycomで同時中継しました。

このワークショップは2010年3月、講師にカリフォルニア大学バークレー校大学院機構・大学院生講師(GSI)教育支援センター長リンダ・フォンヘーネ博士と同アカデミックサービス部長サブリーナ・ソラッコ氏を迎えて開催したのが始まりです。目的は、将来の大学教員職を目指す大学院生に、キャリア達成の両輪であり基盤である教育指導技術(ティーチング)と研究発信技術(ライティング)の修得機会を提供すること、学内の教育体制の中でその機会の制度的持続可能性を検討すること、教育機会の国際的展開の方策を探ることの3点です。PFFは初回から好評を博し、受講者は合計120名に上ります。

4回目の今回は、受講生27名(うち函館会場7名)、チューター7名(うち函館会場1名)、見学者8名が参加しました(表1)。3月末の卒業式直前という変則的な開講時期でしたが、これまで以上に質の

高いワークショップになりました。理由は、PFFが学内で一定の評価を得て、キャリア構築により真剣な学生がその情報を伝え聞き、受講しにくい時期にもかかわらず受講を決断したためと思われます。受講者の分野別内訳は従来の工学系主体から、医学系の増加による全学網羅的な構成へシフトしました。また、国別内訳は日本6名、中国8名、インドネシア4名、その他9名でした(表2)。

PFFワークショップのプログラム内容は以下のとおりです(丸数字はセッション番号)。

- フォンヘーネ講師(教育技術指導：ティーチング)：②ティーチングの基礎④授業のシラバスと学習目標の設定⑦評価基準の作成と利用方法⑧大人数授業への対応⑩職務規程と教育倫理
- ソラッコ講師(研究発信指導：ライティング)：③アカデミック・ライティングの基礎⑤学会発表応募⑥国際学会誌への論文投稿⑨論文要旨(アブストラクト)執筆方法⑩論文推敲・校閲

会場は高等教育推進機構の中教室で、受講生を3～4名ずつの6グループに分け、講師を要として扇状にグループを配置し、各グループにはチューター1人が加わり学習上のサポートをします。その回りを馬蹄状に見学者が取り囲みます。Polycomモニターは講師の正面に設置し機器操作担当の専任スタッフを置いた結果、函館会場の受講生は講義内容を100%享受でき、質疑や意見交換も双方向的に行うことができました(写真1)。

表1 修了者・大学院共通授業履修者・見学者数

	2012	2011	2010	2009
修了	27(7)	37(4)	30	26
大学院共通授業履修	18(4)	30(4)	22	
見学(5回以上出席)	8	18(2)	34(17)	11

*()内は函館会場の参加者数(内数)

表2 修了者内訳(日本人/留学生;専攻分野別)

	2012	2011	2010	2009
日本人	6(22%)	16(43%)	11(37%)	11(42%)
留学生	21(78%)	21(57%)	19(63%)	15(58%)
文系	7(26%)	9(24%)	8(27%)	9(35%)
工学系	4(15%)	8(22%)	9(30%)	7(27%)
理学系	16(59%)	20(54%)	13(43%)	10(38%)

学習支援の仕組み

授業前後には講師によるオフィスアワー以外に、チューターの指導時間を設けました。チューターは毎日の始まりと終わりに2度ミーティングを開き、学習予定内容の確認、受講生たちの学習状況の情報共有、望ましいチューターのノウハウや反省点について意見交換を行いました。チューターはPFFにおける「目に見えるロールモデル」を受講生に示す

とともに、チューター自身の能力向上の機会として、PFF にチューター向けのFD 機能を持たせたのです。

さらに、授業中は発言できない「見学者」のために、ランチバッグ・ミーティングという、昼食時間に講師と見学者が自由に意見交換する場も設定し、学内の若手教員などが参加し友好を深めました。

最終日前日には「サロン」という講師・受講生・チューター全員参加の自由な意見交換の場を設け、これまでの授業内容や翌日のプロジェクト発表についてさまざまな質問や意見を交換しました。

最終日は、受講生に課された二つのプロジェクトの発表があり、限られた時間で最大限の効果を発揮するよう各人ベストを尽くしました(写真2)。

全プログラム終了後には受講生に修了証書、見学者に参加証明書が手渡されました。このワークショップは大学院共通授業科目を兼ね、大学院生18名(うち函館会場4名)が単位認定を受けました。それ以外にも、大学院生、研究生、博士研究員、教職員などが受講生や見学者として参加しました。

若手研究者のネットワーク

今回のPFFも、さまざまな国と専攻分野から集まった留学生と日本人学生が英語を用いて共に学び、知識と友好を広げる貴重な機会となりました。これまでとは違って印象的だったのは、受講生が総じて積極的に発言していたことです。函館の参加者もPolycomをとおして積極的に発言し、チームワークの力をみせました。

また、チューターたちの成長には目を見張るものがありました。講師と受講生を結ぶハブとして献身的に尽くす姿は、将来の教育研究者として必ずや役立つと確信させられました。フォンヘーネ・ソラッコ両講師もPFFによって蒔かれた人材の種が本学内に芽吹き始めていることに大変満足していました。

平成18年から、各大学院でも組織的にFDに取り組むことが義務化され、PFFはその表われです。PFFで大学教員職の両輪である教育指導技術と研究発信技術の基礎を学んだ受講生たちが、今度はチューターとして実践を積み、その経験を踏み台に自らのキャリアを切り拓いていくというロードマップがPFFで作られるのです。事実、チューターの中には、PFF受講により論文の採択率が上がったり、

新年度から大学就職が決定した者がいます。そんな彼らが声を一に指摘したのはPFFのインパクトです。

閉会式では、今後も継続して開催を望む声が数多く寄せられ、将来PFF同窓会を開こうという声とともに幕は降りました。PFFによって築かれつつある若手研究者のネットワークは主催者の思惑を越えた持続可能なものになりそうです(写真3)。

なお、第5回PFFは来年3月に開講予定です。

(文学研究科・教授 瀬名波 栄潤、
名誉教授 安藤 厚)



写真1 授業風景(札幌)



写真2 最終プロジェクト発表(函館)



写真3 修了式で(札幌)

生涯学習 LIFELONG LEARNING

遠友学舎炉辺談話に約 170 人が参加

遠友学舎炉辺談話は、遠友夜学校（1894～1944年）を通じて多くの人びとに学びの場を提供した新渡戸稲造博士らの志を受け継ぎ、北海道大学の創基125年を機に、2001年度に始まった公開のセミナーです。地域の方々や学生、教職員がともに知識を深め、交流する場として親しまれており、2005年度からは生涯学習計画研究部門が企画実施を担当しています。

12年目を迎える今年度は、新田孝彦副学長のほか、4人の研究院長を講師に迎え、2013年2月13

日から3月28日に、計5回、各回18時半～20時半に遠友学舎談話ラウンジで開催しました。例年と同様、本学を代表する研究者による、各専門分野の研究についてのお話や、本学における教育研究の取り組みの解説に、参加者は熱心に聞き入っていました（写真1）。

各回の講師と演題、参加者数は表1の通りです。今年度の参加者は、5回で延べ173人でした。

（三上 直之）

表1 2012年度遠友学舎炉辺談話 各回の内容と参加者数

日時	講師と演題	参加者
2月13日（水）	山下正兼 理学研究院長「今こそ輝く理学部における教育と研究」	32人
2月20日（水）	新田孝彦 副学長「高度技術社会における生命のこれから—倫理学から考える—」	38人
2月27日（水）	伊達広行 保健科学研究院長「放射線はどうして危険なのか？」	30人
3月21日（木）	嶋津克明 地球環境科学研究院長「表面ナノ構造制御と環境・エネルギー」	40人
3月28日（木）	姉崎洋一 教育学研究院長「大学と地域社会の相互関係—近くて遠い、遠くて近いその縁（えにし）」	33人



写真1 講師の話聞く参加者

科学技術コミュニケーション CoSTEP

CoSTEP 研修生制作の映像作品が札幌地下歩行空間で上映

市民が情報発信できる公共メディア空間

科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP) の2012年度研修生2人が制作した4つの映像作品が、2013年3月1日から3ヶ月間、札幌駅前通地下歩行空間の北2条広場 (Sapporo*North2) で上映されています。この広場は、市民自らが情報を発信するCGM (Consumer Generated Media / 消費者生成メディア) の場として、日本で初めて設置された公共空間です。2011年3月の開通以降、平日は1日7.1万人 (冬期) 5.9万人 (夏期)、休日は5.3万人 (冬期) 4.2万人 (夏期) もの市民や観光客が通ります。西側には65インチ縦型ディスプレイが6面、東側には52インチ横型が4面設置され、立体音響システムによって広場全体を総合的に演出できます (写真1)。

科学実験をアートや笑いで演出する

山崎舞さん (工学院修士2年・当時) は、科学実験をテーマに2つの作品を制作しました。「Handmade Crystal Tree (手作り結晶ツリー)」(2分45秒) は、サイエンスとアートを融合させたミニ映像作品。札幌で活動するプロのミュージシャン「spangles (スパングルス)」のオリジナル曲「ルララ」にあわせて、尿素と洗濯のり、洗剤、牛乳パックなど身近な材料で、とても美しい雪のような結晶を作る実験を紹介しています。「博士の奇妙な実験 (A Strange Experiment)」(4分00秒) では、ちょっととぼけた博士と助手が、メチレンブルーを使った少し奇妙で不思議な実験を繰り返す様子を、サイレント映画のようなコミカルな演出で表現しました (写真2)。

北大キャンパスの魅力を再発見

森安悟さん (北海道立総合研究機構) は、北大キャンパスの魅力を伝える2つの作品を制作しました。「Colors of HOKUDAI (北海道大学の四季)」(3分9秒) では、メインストリート南端 (クラーク像の

近く) から、1年に渡ってキャンパスを定点撮影。木々が芽吹き、新緑、紅葉、一面の雪へと移り変わる様子や、キャンパスを行き交う人々を、時間を凝縮して描きました。「北大豆知識 vol.1 (北大キャンパス南から北まで走ると何分?)」(3分33秒) では、CoSTEPのラジオ制作チームと協力して、正門から、北のはじにある創成研究機構までの約2.3kmを走って行くとい体どれくらいかかるのか、ラジオチームの男子学生による体を張ったりポートと、美しい風景で表現しました。

CoSTEPの映像制作実習

CoSTEPでは2008年度より、映像制作を実習のコースに取り入れ、これまで20以上の映像作品を受講生たちが制作してきました。ノーベル化学賞受賞直後の鈴木章名誉教授へのインタビューや、理系と文系のカルチャーギャップをコミカルに描いたドラマ、サイエンス・カフェを作るプロセスを追ったドキュメンタリーなど、過去の作品は全てCoSTEPサイト内の「CoSTEPチャンネル」(<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/costep/channel/>) から視聴できます。受講生たちは映像制作という作業を通して、映像はもちろん、音や言葉を駆使したメディアコミュニケーションのスキルを身につけていきます。おそらく日本の科学コミュニケーション教育プログラムの中でも、ここまで映像を活用したものは少なく、CoSTEPの大きな特徴の一つとなっています。

大学と市民のコミュニケーション

これまでは、CoSTEP修了式での上映会や、インターネットのサイトから映像を公開してきましたが、市民が直接見る場で継続的に上映されるのは初めてです。大学というある意味、閉じた世界の情報を、いかに広く親しみやすい形で社会へ届けるか。これは科学技術コミュニケーションの大きな課題です。今後は北大が生んだ最先端の研究成果や、研究者の人となりや、大学を支えてくださっている札幌

市民に向けて、分かりやすく魅力的な形で伝えていきたいと考えています。その上で、札幌駅前通地下

歩行空間という場は、市民と大学をつなぐ架け橋になるのではと期待しています。(早岡 英介)



写真1 札幌駅前通地下歩行空間での上映会の様子

写真2 上映会で挨拶する山崎さん(右)と森安さん(左)

教育支援 EDUCATIONAL SUPPORT

2012 年度第 2 学期 アカデミック・サポートセンター (ASC) 活動報告

アカデミック・サポートセンター (ASC) の第 2 学期 (10 月～3 月) の活動を報告します (表 1・2)。

スタッフと院生チューターによる個別の学習サポートは、延べ 1,109 人が利用しました。利用者数は第 1 学期とほぼ同じで、前年同時期とも同程度と多くの学生に利用されています。スタッフによる進路相談は延べ 151 人が利用し、特に 10 月と 2, 3 月の利用者が多くなりました。レポートの書き方をテーマとするスタディ・スキルセミナーは、参加者延べ 29 人でした。また、2012 年度から附属図書館との共催で、プレゼンや論文作成をテーマとするスキルアップセミナーを試行し、参加者延べ 106 人でした。

図 1 は 2012 年度の ASC 月別利用者数です。学

習サポートの利用者数は定期試験前に集中します。今学期は利用者が集中する時期にチューターを増員しました。次年度も利用者集中時期にはチューターの増員を予定しています。

進路相談は 4 月に履修に関する相談が非常に多く、次年度も同じことが予想されますので、多かつた相談について Q & A を作成するなど、準備を進めます。また、ピア・サポート室など他機関との連携を強化して、新学期に備えています。スタディ・スキルセミナーおよびスキルアップセミナーは学生の利用しやすい時期や時間を工夫して開催する予定です。学生への周知など、今後とも教職員のみなさまのご協力をお願いいたします。

(日吉 大輔)

表 1 第 2 学期 学習サポートの利用状況

	利用人数		利用時間 (h)	1 年生				2 年生以上	学年不明
				総合入試		総合入試以外			
	2012 年度	(2011 年度)		文系	理系	文系	理系		
計	1109	(1062)	683.5	14	734	4	197	40	120

表2 第2学期 進路相談の利用状況

	相談人数	相談時間 (h)	総合入試		学部別	その他・不明
			文系	理系		
計	151	59.4	3	91	38	19

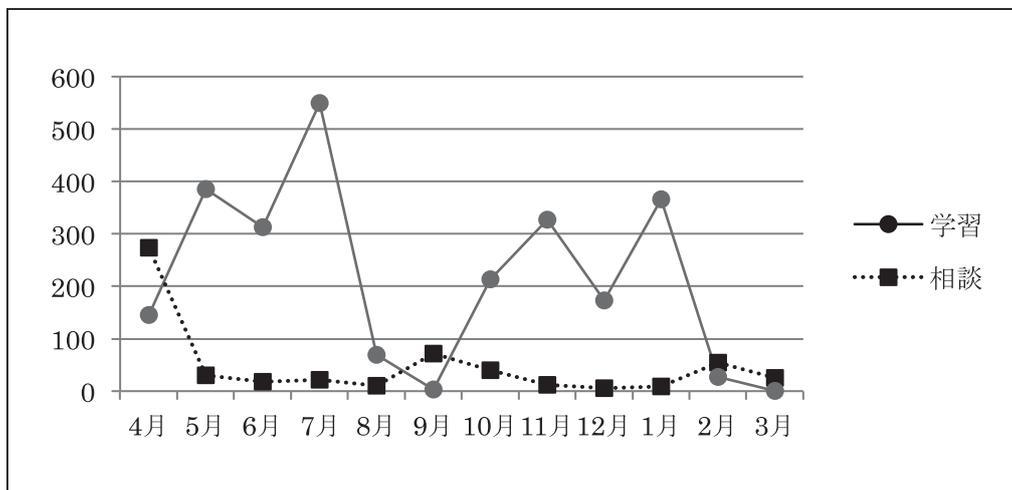


図1 2012年度月別ASC利用者数

アカデミック・サポートセンターの新メンバー紹介

今年度10月からアカデミック・サポートセンター 特定専門職員（インストラクター）に着任しました 清水将英と申します。センターでは主に、初年次学生の正課授業外における主体的学習を支援する「学習サポート」関連の仕事を担当しています。それ以前は、大学院理学研究院で専門研究員をしていたほか、旭川高専、苫小牧高専にて物理学の非常勤講師をしていました。私の専門は超弦理論の数理的な側面についてで、この世界の全てを司る究極の理論がどういう数学で記述できるのかという、物事をとことん突き詰めた先にある何かを探求していました。

この仕事に就いて若い大学生の皆さんと接する中で驚いたことは、皆さんが如何に目的意識を明確に持って日々行動をしているかということです。また相談対応の際には彼らの受け応えが実にしっかりしている事にとっても感銘を受けました。自分の大学一年生の頃と比べても雲泥の差で、頼もしさと同時に

身が引き締まる思いも感じています。私は普段、数学、物理、化学、英語など広範な内容の相談にのっています。学生たちの質問は時に本質を突いており、自分の専門科目においてさえ、唸らされ粘り強い対応を強いられることが度々あります。やりがいと知的好奇心にうち満ちた日々を送らせて頂いております。

夢と希望に満ちあふれた素晴らしい学生たちの学びの場に、微力ながら貢献させて頂ける機会を得て、これに優る喜びは無し、という思いです。どうぞ宜しくお願い致します。

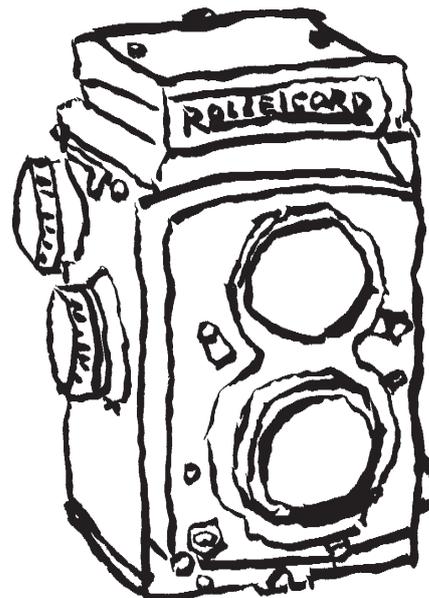
(清水 将英)

今年度10月からアカデミック・サポートセンター(ASC)のスタッフになりました山畑と申します。アカデミック・アナリストとして総合入試やサポートのデータの分析を中心に各種業務を行っております。

専門はインド中世の言語と文学です。北海道大学大学院文学研究科で博士課程を修了した後、東京外国語大学にPDとして在籍しておりました。当時の写本を取り扱うことが多く、また研究に必要な知識も現地の方から得ることが多いため、これまではインドを拠点として研究を進めていました。博士論文ではアパブランシャ語という言語で書かれたジャイナ教の説話文学作品の校訂翻訳を中心とした研究を行いました。それらの経験を各種外国語やレポート等文系科目のサポートに生かしていこうと考えています。

さてASCにおける私の主要な業務はデータ分析です。今年度で2年目となる総合入試に対する学生の皆さんの意見を参考に、より総合入試の趣旨に

かない、かつ満足度の高い制度を模索するお手伝いができればと願っています。またASCの進路相談と学習サポートの利用者についても随時確認していますが、学習面、進路面のそれぞれで真剣に取り組む中で、それと同時に切実な悩みも日々増えていると感じています。幸いASCの機能については学生の中に浸透してきたようで、利用者数も前年度と比較して大幅に伸びており、総合入試入学者以外の利用者も増え続けています。現在の大学生を取り巻く環境の中で、学習や進路を含めたさまざまなことを相談できる組織としてASCはいよいよ重要となっているため、より高いレベルのサービスを提供できるよう今後も努めていきます。(山畑 倫志)



日誌 EVENTS, January-February

1月

- 9日(会議) 第3回総合教育学生専門委員会
- 9日(会議) 平成24年度第1回公開講座実施部会
- 11日(会議) 大学間連携共同教育推進事業 英語力評価研究委員会
(Google+ ハングアウト)
- 19日～20日(試験)
大学入試センター試験
- 21日(会議) 平成24年度第1回教務情報システム専門委員会
- 23日(会議) 第2回大学IRコンソーシアム運営委員会(TV)
- 24日(会議) 第8回教育改革室会議
- 29日(会議) 入学者選抜委員会
- 31日(会議) 平成24年度第2回公開講座実施部会

2月

- 5日～6日(行事)
学部移行ガイダンス, 学部・学科等紹介
- 12日(会議) 入学者選抜委員会
- 12日(行事) AO入試(大学入試センター試験を課す) 合格者発表
- 13日(会議) 平成24年度第1回科学技術コミュニケーション教育研究専門委員会
- 13日(談話) 平成24年度第1回遠友学舎炉辺談話
- 15日(会議) 平成24年度第3回生涯学習計画研究専門委員会
- 19日(会議) 第4回総合教育学生専門委員会
- 19日(会議) 平成24年度第3回高等教育開発研究専門委員会
- 20日(談話) 平成24年度第2回遠友学舎炉辺談話
- 22日(会議) 第5回全学教育専門委員会
- 25日～26日(試験) 一般入試(前期日程)
- 27日(談話) 平成24年度第3回遠友学舎炉辺談話
- 28日(会議) 第9回教育改革室会議

行事予定 SCHEDULE, April-June

◆4月

- 1(月)～4(木) 新入生定期健康診断
- 5(金) 新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス(学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
- 8(月) 入学式
- 9(火) 履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム(ELMS)利用に関するガイダンス
- 10(水) 第1学期授業開始日
- 10(水)～16(火) 抽選科目の申込期間(Web入力)
- 18(木) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 19(金)～25(木) 平成18～25年度入学者履修届 Web入力
- 19(金), 22(月) 平成17年度以前入学者履修届受付

◆5月

- 20(月) 6講時授業実施開始

◆6月

- 6(木) 開学記念行事日(休講)
- 6(木)～9(日) 大学祭[6(木), 7(金)は休講]
- 12(水)～14(金) 履修登録した科目の取消し受付(Web)
- 15(土) TOEFL-ITP試験(英語II)
- 27(木) 6講時授業実施終了

ニュースレター 2013, No.94 目次

〈巻頭言〉大学院教育部設置からの1年 小林 幸徳 1	IR ネットワーク推進室の新メンバー紹介 12
充実した学生生活を過ごすためのヒントを得られる部屋に ～ピア・サポート 2012 年度の活動～ 平 侑子 3	IR キックオフシンポジウムを開催しました 13
北海道大学における授業料免除に関する取り組み 4	「学生調査 2012 年報告書」を発行しました 13
全学教育科目における授業参観について 5	1 年次学生の成績と GPA 値の推移 14
学務委員会報告 5	第4回「大学院生のための大学教員養成(PFF)講座」を開催 ～持続可能な若手研究者 FD とネットワーキング～ 16
2013 (平成 25) 年度 全学教育部・総合教育部行事 予定表 8	遠友学舎炉辺談話に約 170 人が参加 18
平成 24/23 年度 (第 1 学期) 全学教育科目履修者数対 比表 9	CoSTEP 研修生制作の映像作品が札幌地下歩行空間で 上映 19
平成 24/23 年度 (第 2 学期) 全学教育科目履修者数対 比表 10	2012 年度第 2 学期アカデミック・サポートセンター (ASC) 活動報告 20
平成 24 年度全学教育における各部局の授業担当状況 (折り込み)	アカデミック・サポートセンターの新メンバー紹介 21
「教学評価体制 (IR ネットワーク) による学士課程教育 の質保証」採択される 11	日誌・行事予定 23
	目次・編集後記 24

編集後記

世の中の変化は激しくて、ついに東大や京大が AO 入試や推薦入試を導入するそうです。知識だけを問う入試には、おのずから限界があります。北大にも来られた、故マーチン・トロウ博士の大学発展の三段階説を思い出しました。18 歳人口の大学への進学率が 50% を超えると、その国の大学はユニバーサル段階に突入します。ユニバーサル段階はどの大学にも平等に訪れます。大学進学要件はより開放的になり、制度化された入試は崩壊をはじめます。平行して段階的学習方式の崩壊も予見されています。新渡戸カレッジのような新しい仕組みを次々に打ち出さなければ、この多様性には対応できないのかもしれませんが。時代の波を読み間違えないよう、高等教育の分野でもさらなる研究が必要です。 (歳)

ニュースレター (旧「センターニュース」)

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)

通算 第 94 号

発行日： 2013 年 4 月 30 日
 発行元： 北海道大学高等教育推進機構
 (旧高等教育機能開発総合センター)
 〒 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目
 電話 (011) 706-7520, FAX (011) 706-7854
 編集委員：◎細川敏幸・山田邦雅・竹山幸作・木村純
 亀野淳・三上直之・瀧澤一騎・山岸みどり
 鈴木誠・池田文人
 ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで
 電話 (011) 706-7514, FAX (011) 706-7521
 インターネットホームページ：
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html>